

## 応募にあたって知っておいて欲しいこと

応募にあたっては、所属先(地方競馬場の厩舎)を決めてからでも、あるいは決まっていなくても構いません。しかし、大切な人生の目標としてこれから進む道ですので、競馬社会を良く理解して応募して下さい。

### 1 騎手という職業

騎手は、プロのスポーツ選手です。二年間でプロの道を目指し、フェアでプレーする精神を身につけます。馬に騎乗する技術だけではありません。公正に実施される競馬の中で、常に注目される存在です。

### 2 体重調整

騎手にとって体重を調整することは最も重要なことの一つです。当センターでは教育期間中、個人差はありますが2~4 kg増加しますので、各々の騎手候補生に対し、年齢区分毎に規定体重を指定し、修了時の規定体重 49.0 kgに備えています。

騎手候補生は、栄養管理された毎日の食事以外に、自主的に体を動かし、プロの騎手として通用する体づくりを目指しています。

### 3 起床時間

候補生の1日の流れ

当センターの起床時間は午前5時半。午前中に3頭の実馬訓練と、午後から騎手に必要な教養を得るため学科の授業があります。その内容は法規、馬術、馬学、調教、管理、衛生と多岐に渡り、プロスポーツ選手を目指すためメンタルトレーニングや、体の使い方を習得するためフィジカルトレーニング、武道(剣道)を通して礼儀作法を学びます。

### 4 修了生の感想文から(一部抜粋)

#### ◆第103期騎手候補生T君(令和4年3月修了)

希望と不安をもって入所した地方競馬教養センターでの生活が早くも2年が経とうとしています。修了すれば社会人になるわけですが、センターに入所していなければ今の自分はなかっただろうと思えるほど大人に近付けたと思います。

入所して初めの頃は、右も左も分からずに教えてもらう事を少しでも早く吸収しようと頑張ることで余裕のない日々でした。このままやっていけるか不安になることもありましたが、半年が過ぎる頃には生活にも慣れ、少しずつ競走訓練に騎乗することができて、気持ちにも余裕がでてきました。難しい馬に騎乗したときは考えて工夫して、上手に騎乗できたときはとても嬉しかったです。1年が過ぎ上級生になると競走実習などを実施して、自分の改善点や課題が明確になりました。

2年目の夏から競馬場実習が始まりました。関係者の皆様のおかげでたくさんの現役の競走馬に騎乗させていただき、自分の課題も改善されていきました。騎乗以外にも多くのことを学ばせていただき、大きく成長することができました。

途中、挫折しそうになった時に支えてくれた家族、センターで指導していただいた教官、

いつも同じ時間を過ごした同期の仲間、訓練に騎乗させてくれた訓練馬たち、すべてに感謝し、騎手として頑張っていきます。2年間本当にありがとうございました。これからも暖かく見守ってくれたら嬉しいです。

◆第103期騎手候補生 K 君（令和4年3月修了）

教養センターでの2年間の課程を終え、ようやく4月から騎手になります。ここで学んだことは技術や馬学は勿論、特に学べたことは自らの欠点でした。コミュニケーション能力の足りなさやメンタルの弱さ、そして騎乗技術の未熟さに悔しい思いをたくさんしました。時には考え込んでしまい、表情や態度として表してしまうこともありました。たくさんの自分の欠点に打ちひしがれ、悪い結果を生み出し、何度も自らを苦しめることになってしまいました。

しかし、苦しいことばかりではなく、ずっと夢であった競馬場に所属決定することができました。このチャンスを絶対につかんで離さないようにしたいです。

いつの日か、人馬一体となり駆け抜ける僕の姿で、観て下さっている誰かに憧れられる存在に、そして夢を与えられる騎手になりたいです。そのためにも、もっともっと技術も精神も鍛錬して、誰にも負けない人間になります。

ここまで沢山支えて下さった先生方、家族、競馬関係者の皆様、本当にありがとうございました。騎手になってからも何卒、よろしく願いいたします。